

# 第3次派遣(いわき) 5月10日(火)～5月18日(水)

班長：末留 新吾さん (全労金)

新井 好司さん (静 岡)

土居 淳二さん (四 国)

## 《全労金第3次派遣出発》 5月10日



全労金第3次派遣いよいよ出発しました。今回の派遣は、全労金末留書記次長・静岡労組新井中執・四国労組土居中執の3名です。現在、首都高を走るバスの中で昼食をとり、福島県いわき市に向かいます。いわきベースキャンプには、全5班21名が派遣されます。

出発式終了後には、全労金四役のみなさんだけでなく、第2次派遣のみなさん、本日の役員選考委員会出席のためにいらっしゃった各単組委員長のみなさんに見送られながら、出発しました。これから、作業等の報告をブログを通して、報告していきますので、よろしくをお願いします。

## 《初日の報告》 5月10日



《連合本部でのオリエンテーション前の新井中執》 《いわき市災害ボランティアセンター前での説明》



《いわき市災害ボランティアセンター》

いわきBCチーム総勢21名は、15時10分に宿泊地である「エコホテルいわき湯本」に到着しました。

派遣団迎え入れ式では、現地対策本部を代表して連合福島いわき地協・大越事務局長より、東日本大震災によるいわき地域の被災状況が報告され、「連合ボランティアを始めとして、多くの方の協力により、被災当日より一步一步前進している。ぜひ、ケガのないように活動してほしい。」と挨拶がありました。

迎え入れ式終了後、全員でいわき市災害救援ボランティアセンターを訪問し、行動内容の説明を受けました。

主な活動内容は、被災家屋の家財道具等の片付けや砂泥のかき出し、路肩や側溝清掃など被災者ニーズによる個別作業、ボランティアセンターの受付、等になります。毎朝、ボランティアセンター受付時に、その日の活動が確定し、現地に向かって行動しますので、明日からは、具体的な行動を報告します。

## 《2日目の作業報告》 5月11日

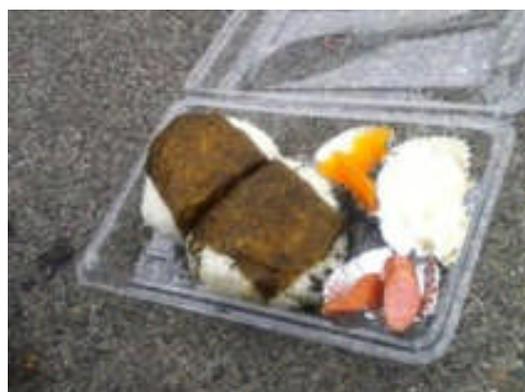
今日のいわき市は、小雨が降る中、肌寒い一日での作業となりました。なお、昨夜は夜中に緊急地震速報が複数回鳴り響き、被災地にいると、改めて実感しました。なお、以下では、活動報告をしていますが、被災家屋や作業途中の写真撮影は禁止されているため、掲載していないことをあらかじめご報告させていただきます。本日の一日の流れは、以下の通りです。

### 《本日の一日の流れ》

- 6時20分；起床
- 7時00分；朝食
- 8時15分；ボランティアセンターへ車で出発（※全5班に4台の車両が割り当てられており、全労金は、全電線さんと一緒にエスティマが割り当てられています）
- 9時10分；スコップ・一輪車・竹ぼうき等を車両に積み込み、作業場所（小名浜）へ出発
- 10時00分；作業開始（小名浜の津波による床上浸水家屋の荷物搬出・泥の掃き出し）
- 12時00分；昼食休憩（途中10分間の休憩）
- 12時45分；作用再開
- 14時10分；作業完了（途中休憩有り）
- 14時45分；ボランティアセンターからの貸与品数の確認と積み込み、長靴等の洗浄後に、ボランティアセンターに向けて出発
- 15時00分；ボランティアセンターで貸与品の返却と活動報告
- 15時30分；作業完了し、ホテルへ戻る



《ボランティアセンターの資材受け渡し場所の様子》



《昼食弁当です。オニギリが大きいのが特徴》

### 《いわきBCの紹介》

- メンバー（全5班・21名） ・電機連合；15名3班 ・全電線；3名1班 ・全労金；3名1班
- ホテル；エコホテルいわき湯本
- 食事；朝食・昼食；エコホテル弁当手配 夕食；各自
- 部屋；班毎に1部屋（10畳和室）

○ 風呂；大浴場（温泉）、その他各部屋にユニットバス有り）

《1日の活動を終えて》

活動開始から雨に降られ、作業がスムーズにこなせるのか心配をしていましたが、なんとか1日が終了しました。本日の活動場所は、小名浜で津波被害による床上浸水を受けた住宅の持ち主からの依頼で、いわきBC全員で対応しました。なお、連合がボランティアセンターの資材渡しの役割も担っているため、各班から合計3名は、資材管理の作業に当たっています。



《地震で隆起したと思われるマンホール》



《津波による建物の倒壊》



《[左;土居中執・中;安齋支部委員長・右;新井中執》

また、今晚、東北労組福島県支部の安齋支部委員長が激励に訪問いただきました。安齋支部委員長ありがとうございました。

朝、現場へ迎う車両のラジオから、福島県内のゴールデンウィークのボランティア数は、ゴールデンウィーク前の3倍の15000人という内容が流れてきました。長期的かつ継続的なボランティア活動が何よりも大切で有り、それができるのが連合の組織力だと思います。明日からも引き続き頑張ります。

## 《3日目の報告》 5月12日



《作業地近くにある漁港で、  
津波による瓦礫を撤去している様子》



《資材班の打ち合わせをしている土居中執  
※左から2番目》



《行動を共にしている全電線の仲間。  
左から石田さん、有田さん、町田さん》

今日のいわき市の天候は、朝は曇りでしたが、昼前には雨降りとなり、そんな中での活動となりました。いわきBCでの活動は2種類あり、被災家屋等の片付けや泥の掻き出しを行う作業係と、ボランティアセンターでスコップやバケツ、ゴミ袋等の貸出道具を管理する資材係があります。今日は、土居中執が資材係、末留書記次長と新井中執は作業係でした。作業係が向かった場所は、海がすぐ目の前にある店舗兼住宅です。津波の影響で店舗が被害にあい、片付けを行いました。作業地までの移動は、全電線の仲間のみなさんと同じ車で行動を共にしています。全電線の仲間のみなさんは、有田良二さん、町田和也さん、

石田誠さん、です。なんと、奇跡の☆「田んぼ3兄弟」再び☆です。全電線の仲間の紹介については、改めて行います。資材班の活動については、資材係を担当した土居中執から報告します。

(以下、土居中執からの報告)

資材係は3人一組で、今日は電機連合の児玉さん・鈴木さんと土居が担当しました。ボランティアセンターでの受付が9時から始まるので、事前準備のために資材係だけ早めに宿泊所を出発し、8時過ぎにはボランティアセンターへ到着しました。朝礼後、道具置場の確認や、前日も担当された児玉さんから仕事の流れについてレクチャーを受け、連合から支給された赤い帽子を目深にかぶり、受付を開始しました。受付が始まると、訪問先が確定したグループが資材貸出リストを持参するので、リスト見ながら資材を準備します。「角スコップ大3小3」「デッキブラシ5」「ネコ2台」(ネコとは一輪車のこと)「てみ3」(てみとはゴミをすくうための大きなちりとりのようなもの)、といった専門用語が飛び交うなかで、最初は戸惑いもありましたがやがて持ち前の器用さを発揮し、資材係にはいなくてはならない存在となり、引き続き明日も資材係を担当することになりました!(引き継ぎを兼ねて3人のうち1人は翌日も担当することになります…) 日中は受付件数も少ないので、道具置場の整理や汚れた道具の清掃を行いました。昼2時を過ぎると、ボランティアの方々が作業を終えて帰って来るので、貸出道具がすべて返却されているかどうかをチェックし、汚れた道具を洗浄し片付けるという作業を行いました。雨が降る中、屋外での作業でしたので少々疲れましたが、それ以上に作業を終えて戻られたボランティアのみなさんのご苦勞を思うと、できるだけ時間をかけないように道具を回収してチェックするように心がけました。

私たちは連合のボランティアとして21人のグループで参加していますが、ボランティアに参加されている方々の中には一人で参加されている方も多くいます。そうした見ず知らずの方々がグループを組んで作業を行う場合もあります。朝、道具貸出時はなにかよそよそしいグループも、作業を終えて道具を返しに来るときはグループ内の連帯感が強まり、お互いを讃えあいながら握手をし、別れていきます。そんな姿を見ていると「人と人との絆や繋がり」を感じる事が出来て、ここに来て良かったとあらためて感じました。

明日も連合から支給された赤い帽子を目深にかぶり、資材係をがんばります。

## 《4日目の報告(衝撃でした)》 5月13日



《全労金第三次派遣の3名、  
左から末留書記次長・土居中執・新井中執》



《作業地に向かう途中にある立入禁止の看板》



《作業地に向かう途中の津波による被災現場》

今日のいわき市の天候は、曇りのち晴れでした。作業内容は、土居中執が資材班の班長の任務に、新井中執と末留書記次長は作業係でした。(※今日は、作業係の報告をします)

我々、連合ボランティア班が向かった作業地は、豊間地区にある漁港で、漁港にある建物内・外の片付けが任務でした。

作業地に向かう途中には立入禁止の看板があり、迂回路を通って作業地をめざしましたが、その迂回路で目にしたのは、津波により

倒壊した民家や潰された車、そして、窓ガラスが割れ、子供の声のしない小・中学校でした。その光景を前に、車内は静まり、ただその場を通り過ぎることしかできませんでした。数分後、作業地である漁港に到着しましたが、その漁港にある二階建ての建物も、窓ガラスや外壁が流失し、室内にある地引き網やカゴなど、すべてのものが散乱していました。

片付けをしている途中、地元の方と話す機会がありました。その方は、津波がくる前、最後までその漁港にいた方で、「津波の前では人間の力は無力だった。近くにいた近所の子どもを抱え、嫁さんと命からがら逃げ出すのがやっとだった」「漁港に係留していた仲間達の10隻の船が津波で流され、今は1隻もない」などの話を伺いました。

自然の猛威の前では、人間の力は無力なのかもしれませんが、その人間の力を合わせて被災された方々の笑顔を取り戻すまで、一人ひとりができることをしていかなければなら

ないと改めて感じました。

「つながろう、ニッポン。がんばっぺ、いわき」



## 《いわきBCの紹介》 5月14日



おはようございます。今日の天気は快晴で、目覚めの良い朝を迎えました。

我々が滞在しているBCは、いわき市常磐上湯長谷町にある「エコホテルいわき湯本」です。

このホテルは、「福島県内初の本格的エコホテル」として、電力を大量消費する集中暖房システムをやめ、自動販売機や部屋の冷蔵庫を廃止し、シャンデリアをエコ電球に切り替えています。更に、節水機能がついたシャワーやトイレ、自然を汚さない無添加せっけんやハンドソープを取り入れています。

館内は禁煙で、全室和室です。

ホームページもありますので、「エコホテル」で検索してみてください。

今日の作業地は、いわき市小名浜の予定です。津波で被災された、一人暮らしをされている高齢者の方の自宅で、作業予定内容は、家財道具や自宅近辺の片付けです。

では、行ってきます。

## 《5日目の報告》 5月14日



今朝のブログで報告した通り、今日のいわき市は、晴天に つつまれました。

今日の任務は、新井中執が資材班、土居中執と末留書記次長が作業係でした。

連合ボランティアを含めたボランティア参加者は、11日以降、約130～180名でしたが、土曜日である本日は約600名となり、午前9時から始まるボランティア受付は、長蛇の列となりました。

今日のボランティアには、東北労組福島県支部平分会と小名浜分会の仲間5名(写真は4名)も参加し、被災家屋の瓦礫撤去と片付けを行いました。

作業係の今日の活動場所は、津波で被災した小名浜高校近くの家屋でした。そのお宅には、今までボランティアが5回訪問し、庭の瓦礫撤去や畳上げ、庭の整理をしましたが依頼内容は完了せず、6回目となった今日は、庭の土嚢運びや側溝清掃、自宅や庭の片付けを行いました。

作業の際には、必ず休憩をとり、水分を補給しながら身体をケアしていますが、力仕事は体力が消耗します。ですから、被災者の方々が連日のように自宅や職場の片付け・荷物整理と搬入出、清掃をし続けることは、体力的にも精神的にも限界があります。現状から一歩前進するためには、ボランティアの力が必要であると改めて感じました。

今日の活動で、依頼された内容は完了しました。活動終了後、依頼人の方より、「みんなと一緒に写真とっぺよ」と声をかけていただきました。疲労の色が顔に出ていた連合ボランティア団も、その声を聞いて笑顔が戻りました。

依頼人と一緒に撮った写真は私たちの手元にはありませんが、記憶にはしっかりと残りました。

いわき市内を通ると、「がんばっぺ!浜通り」「がんばっぺ!いわき」のステッカーを貼っている車を見かけます。このステッカーは400円で販売されており、いわき市内のコンビニの一部や製造元の印刷会社でのみ販売しています。そのお金は義援金としてこれからの復興に役立てられます。今日の帰り道、やっとそのステッカーを購入することができました。



「つながろうニッポン」「がんばっぺ!いわき」この言葉を胸に、残りの期間の活動を続けていきます。

## 《6日目の報告》 5月15日



《ボランティア参加者の受付風景》



《作業途中に休憩する防護服姿の土居中執と  
末留書記次長》

今日もいわき市は快晴でした。

今日の任務は、新井中執が資材班、土居中執と末留書記次長が作業係でした。

いわきBCからボランティアセンターまでは、車で約30分かかります。全労金は、全電線の仲間(新・田んぼ三兄弟)と同じ車で移動しており、車内やボランティア活動での会話を通して、距離感が縮まっています。

今日の連合ボランティアを含めた参加者は、約400名でした。昨日の土曜日よりは少なかったですが、平日の倍以上のボランティアが結集し、いわき市内各地で作業をしました。

今日の連合ボランティア団の活動場所は、いわき市久野浜で、内容は町内会からの依頼による側溝の清掃(土砂の引き揚げ)でした。久野浜は、地震・津波による被災の他、火事が発生した地域です。また、東電福島原第一発から30.5kmの地域で、緊急避難をした地域でもあり、風評被害から、食料品などがしばらく届かなかった地域でもあります。作業前段には、東電福島原第一発から30.5kmの地域であることが報告されましたが、連合ボランティア団全員の意思で、久野浜で作業することを確認しました。

作業終了後、町内会長と話す機会がありました。

「町内に130世帯あるが、津波や原発による避難があり、今は3分の1は戻ってきた。原発による避難時は、バスによる緊急避難だったので、家族でも離ればなれに避難し、避難所も別々になってしまった人もいる。少しずつ片付けが進んでいるが、道路や側溝を綺麗にして、多くの世帯が戻るために備えたい。そのためにも、連合ボランティア団のみなさんがしていただいた清掃で、本当に綺麗になった。ありがとう」との話をいただきました。更に、被災自宅の片付けをしている地元の方々から、「お疲れさま。ありがとね」との言葉をいただきました。その言葉は、身体の疲れを吹き飛ばす特効薬になっています。

一方で、残念な光景も目にしました。地元の方々ではない複数の人間が、デジカメや携帯電話で被災地域や被災家屋の写真を撮っていました。しかも、笑いながらです。被災地は観光地ではありませんから、正直、腹が立ちました。

町内会長も、「今になれば慣れてきたけど、頭にくるし、ひっぱたきたくなる」と言っ



## 《7日目の朝》 5月16日



《左から、全電線の石田さん、有田さん、  
町田さん》

わき市での活動の奮闘を誓いあいました。

それでは、行ってきます。

おはようございます。今朝のいわき市も快晴で、降水確率0%です。今日は新井中執が資材班の班長、土居中執と末留書記次長は作業係、作業予定地はまだ未確定で、ボランティアセンターでの受付で決まる予定です。

私たちが宿泊しているいわきBCは夕食が出ませんので、各自でとるようになりませんが、昨夜は、全電線の仲間と一緒に夕食をとり、懇親を深めました。

今回参加されている全電線の仲間3名は、みなさん住友電工労組の出身で、支部で専従役員を担われています。班長の有田さんは大阪支部、町田さん伊丹支部、石田さんは横浜支部で、全労金の3名と同年代であることが分かりました。

年代が一緒ですから、共通する話題も多く、労働組合の話から始まり、テレビドラマやアニメの話で盛り上がり、最後には、残り少ないい

## 《7日目の報告》 5月16日

本日のいわき市内の天気は、晴れ、最高気温26℃と、暑い一日でした。

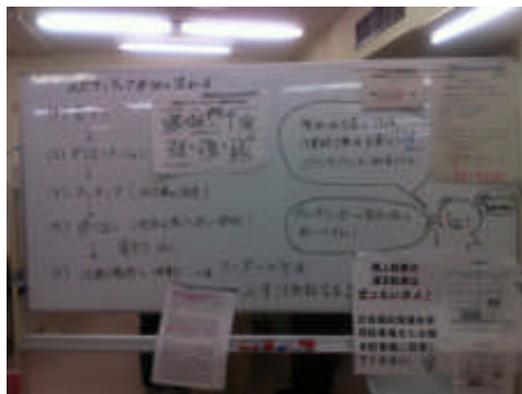
本日の作業場所は、いわき市豊間で、作業内容は、被災家屋の土砂撤去でした。沖には、4mの防波堤が有りましたが、津波はそれを乗り越えて周辺を襲い、何処からか流れてきた大木が壁を突き破り、大きな被害となっていました。

連合ボランティア団は、18名で作業を行い、土のう袋850袋の土砂撤去作業となりました。末留書記次長・土居中執ともに、「達成感があった」との感想でした。

一方、新井中執は、資材班の班長として作業を行いました。本日のボランティアの受付は、平日としては多く、255名のボランティアが参加し、資材班3名で対応しました。本日も風が強く、設置されたテントが飛んでいきそうなくらい強い風が吹き続けていました。ボランティア活動を終え、資材班に資材を返却した時のボランティアの方々の笑顔が印象的でした。そこには、学生も会社員も肩書きも関係なく復興に向けて思いを一つにしてボランティア活動を協力して達成した充実感が感じられました。

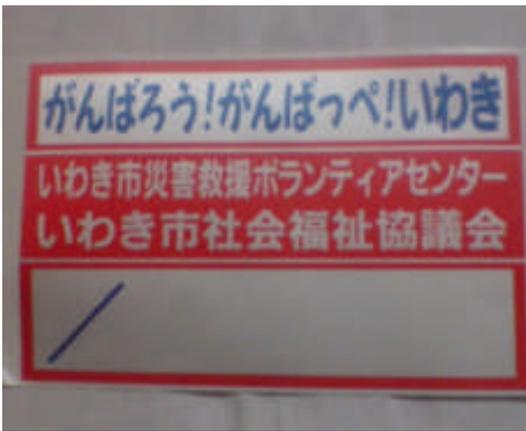


【地震で沈下したボランティアセンター入り口の階段付近】

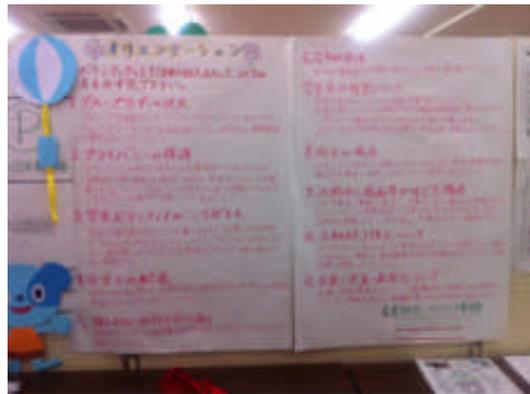


【ボランティアセンターでのオリエンテーション会場の説明内容】





【ボランティア活動中に貼り付けることになっている名札です。私たちも毎日記入して貼り付けて活動しています】



【写真は、ボランティアの流れを説明した内容で、ボランティアセンターに貼り付けられています】

## 《作業最終日の朝です》 5月17日

おはようございます。

いよいよ、全労金第三次派遣の作業日が今日で終了します。

今朝のいわき市は曇り、予想気温は20℃で、作業日和の気候です。

今日の作業地は、いわき市四倉にある、津波で床上浸水した被災家屋で、作業予定内容は、床板を剥がして、床下の土砂撤去です。

昨日、連合以外のボランティア参加者で、頭を3針縫う怪我をした方が発生してしまいました。作業地や作業内容によって違いはあるかもしれませんが、災害ボランティアは怪我をする危険性のある作業となります。

今日からは、ボランティア活動中はヘルメットの着用が義務付けられました。引き続き、安全第一で作業します。

最後の作業、連合ボランティア団全員が作業係として現地に向かいます。では、行ってきます。

## 《作業最終日の報告》 5月17日



《いわき市災害救援支援センター入口》



《作業地に向う途中の被災家屋》

今日の天候は曇りで、作業しやすい温度でした。

当初、いわき市四倉での作業予定でしたが、土砂撤去など、すでに終了している可能性もあることから、いわき市久ノ浜での作業も予定地として、ボランティアセンターを出発しました。

連合ボランティア団の一部が四倉の作業地を訪問しましたが、すでに作業は終了していたため、連合ボランティア団全員で、いわき市久ノ浜にある被災家屋の瓦礫撤去を行いました。作業地の地域は津波により被災しており、道路の両脇には多くの瓦礫が残っています。この瓦礫が綺麗に無くなり、東日本大震災以前に戻るためには、多くの人の力が必要であると感じました。

今日は作業最終日ですので、今回の連合ボランティア団に参加した3名の感想を掲載します。

(新井中央執行委員・静岡労組書記長)

まずは、活動を終え、全日程けが・体調を崩す仲間がいなかったことは、大変よかったと思っています。その上で、被災地の復興に向けたボランティアの重要度は高まるばかりですが、ボランティアに行けない多くの方の支援についても、検討が必要ではないかと感じています。例えば、いわき市では、「ガンバっぺいわき」のステッカーを400円で販売し、全額義援金としてノートを作成し、子供達に配布する取り組みがあり、微力ながら、私達も購入し、取り組みに参加させていただきました。今後、私の立場で出来る取り組みを進めていきたいと思っています。

(土居中央執行委員・四国労組書記長)

本日、無事に8日間の日程を終了しました。体格には自信がありますが、体力には自信がなかったので、参加する前は不安でしたが、まわりみなさんのフォローもあり怪我もなく活動を終えることができました。今回の活動を通じて感じたことは、復興に向けて取

り組む人間の力強さです。ボランティアに携わる我々ではなく、被災した家屋の片付けや、道路の清掃作業に黙々と取り組む、被災された方々の背中から現実と向き合うことの厳しさを感じました。私達は、明日からはそれぞれの生活に戻り、それぞれの役割を果たしていかななくてはなりません。でも、支援する気持ちを失うことなく、いろいろな形で復興に協力していかななくてはならないと感じました。元に戻るにはまだまだ時間が必要です。それを少しずつでも縮めることが出来るのは私達ひとりひとりではないでしょうか。第4次派遣以降に参加される皆様のご活躍を祈念しつつ、明日高松へ戻ります。ありがとう！福島！また必ず帰ってきます!!

(末留書記次長)

東日本大震災から2ヶ月経過しました。しかし、まだまだ手付かずの地域、手付かずの被災家屋があり、瓦礫や土砂の撤去、家屋内外の清掃、引っ越しの手伝い等、ボランティアの力を待っている方々が多くいます。被災者のみなさんは、一歩ずつ前進するために、出来る限りのことをされています。私たちも、出来る限りのことをしなければなりません。あらゆる支援に、私たちが積極的に取り組んで行きましょう。



## 《9日目最終日の報告》 5月18日

おはようございます。

いわき市の今朝の天候は晴れ、気温は18℃です。

5月10日に東京を出発し本日まで、いわきBCを拠点に、福島県いわき市の被災地で災害救援ボランティア活動を行いました。連合災害救援ボランティア第六陣21名(全労金第三次派遣3名)の被災地での任務は終了となります。

私たちが目にし、被災者の方々の話を伺って感じた事は、ブログを通して全国の仲間の方々に伝えてきました。

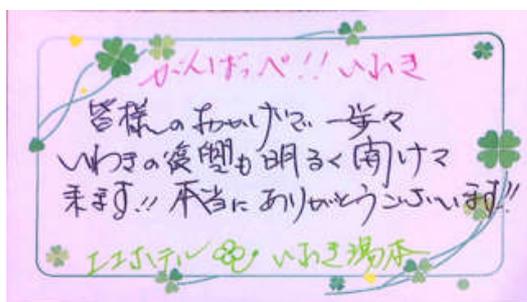
被災地には、まだまだ瓦礫が残っていて、手付かずの場所が多くあります。自分が知っている震災前のいわき市に戻るためには、多くの時間とたくさんの力が必要であると感じました。

被災者の方々は、その復興までの時間を短くするために、自宅・地域・職場で奮闘されています。

私たちが被災者の方々の気持ちにいかにか寄り添えるか、被災地の復興に向けて何ができるのか、改めて考える機会となりました。

いわき市だけではなく被災地全体の復興に向けて、私たち全国の仲間が力を結集して、引き続きの支援を行なって行きましょう。

最後に、今朝、いわきBCである「エコホテルいわき湯本」からいただいたメッセージを紹介して終わりにします。



【活動期間中に滞在した「エコホテル」より、一人一人に添えられた手書きのメッセージです。】



以 上